

流転生
りゅうりょてんしょう
鈴木藏の志野



2010年11月20日[土]～2011年3月21日[月・祝]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。次回、当館では「流旅転生—鈴木藏の志野」展を開催いたします。

鈴木藏（すずきおさむ、1934年～）は、平成6年(1994)に「志野」の技術保持者として重要無形文化財に認定された、現代の美濃を代表する作陶家です。鈴木は陶磁器生産地として長い歴史を持つ岐阜県土岐市に生まれ、桃山時代にこの地で生まれた志野に取り組み続けてきました。本展では、伝統に現代の清新な息吹を吹き込み高い評価を得ている鈴木藏の新旧作品を、一堂に展覧いたします。

つきましては展覧会の概略をご案内申し上げますので、本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■展覧会概要

- 展覧会名 流旅転生— 鈴木藏の志野（りゅうりよてんしょう すずきおさむのしの）
- 会期 2010年11月20日（土）～2011年3月21日（月・祝）
- 観覧料 一般 1,300円 / 大学生 800円 / 小・中・高生 500円
- 主催 財団法人菊池美術財団
- 協賛 京葉ガス株式会社
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 <http://www.musee-tomo.or.jp>
（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビ）
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし2011年1/10、3/21日は開館）、2011年1/11（火）
年始年末〔12月28日～2011年1月1日〕（予定）
- 展示内容 ■1985年「流旅転生」展（於：菊池ゲストハウス）にて発表された食器一式。
■大皿、花器、茶碗、水指など、現在にいたるまでの鈴木藏の代表作品
…計およそ50点余による構成
- 関連行事 ■講演会1（呈茶つき） 2011年1月15日[土] 午後3時より
「桃山の志野—その成立と展開」 林屋晴三（当館館長）
■講演会2（記念対談） 2011年2月5日[土] 午後3時より
「作家と語る—鈴木藏の志野」 鈴木藏氏＋唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）
■講演会3 2011年2月26日[土] 午後3時より
「現代の志野」 林屋晴三（当館館長）
■学芸員によるギャラリートーク 下記の各土曜日午後2時より
2010年11月27日、12月4日・11日、2011年1月22日・29日、3月12日
■西洋館見学会 下記の土曜日午後2時より（予約制・定員20名様、会費8000円）
2010年12月18日、2011年2月19日、3月5日

※関連行事のお問い合わせ・ご予約は美術館（☎03-5733-5131）まで。

■展示内容のご案内

日本が生んだ美しい白の陶器—志野

志野は、桃山から江戸へと時代が移り変わる 16 世紀末から 17 世紀初頭、慶長年間というごく限られた時期に、美濃地方で焼かれた白いやきものの通称です。長石釉がたっぷりとかかった中に、鉄分による赤色がほのかに表れる志野の器は、従来にはなかった日本独自の美しい「白い陶器」であり、水指や茶碗、食器などの雅趣に富んだ様々な製品が造られました。当時の優品は伝世品として珍重されてきましたが、生産が途絶えた後、焼造の実体については解明されず、昭和 5 年（1930）に陶芸家の荒川豊蔵が窯址を探し当てたことをきっかけに考証が始まりました。以降、荒川をはじめ、加藤唐九郎、川喜田半泥子らが志野を現代によみがえらせようと焼造を試み、こうした先達の活躍があって、志野は再び、広く一般に親しまれるようになりました。

“鈴木志野”の魅力



1. 志野花器 2008~9 年

鈴木藏（昭和 9/1934 年—）は、現代志野をつくる陶芸家のなかでも抜きん出た存在です。窯業家、鈴木通雄を父に岐阜県土岐市に生まれ、昭和 34 年(1959)、25 歳のときから現在まで 50 年余にわたり、志野を中心に、織部や瀬戸黒の仕事が続けてきました。平成 6 年(1994)には荒川豊蔵に次ぎ、二人目の「志野」の重要無形文化財保持者に認定されています。

「志野は日本で生まれた独特の創作であり、日本人の感性、美意識といった最も基本的なすべてが凝縮されている」とは、鈴木 の言葉です。簡素な表現には、積み重ねた思いを凝縮させた深みがあります。鈴木は、こうした志野の本質を、現代にも継承すべく真摯に追求してきました。

それを最も象徴するのが、独立当初からのガス窯専一の焼造法です。薪窯でなければ良い志野は造れないという既成概念にとらわれることなく、現代のエネルギーを肯定し、焼成時の偶然性をできる限り排除して自身の創意の行き届いた作陶を目指してきたのです。制作は、茶碗や花器などの茶陶と、食器との 2 本柱ですが、それらはいずれも用の器であると同時に、造形性に富み、作品としての強い存在感、自律性を持っています。

展示構成—食器揃「流旅転生」と代表作を展観

展覧会では、鈴木 の食器制作の原点でもある 1985 年の「流旅転生」展（菊池ゲストハウス）出品作 30 点余と、これまでの造形の変遷をたどる大皿、花器、茶碗、水指などの代表作 25 点余とをご紹介します。「流旅転生」の食器は、会席料理のための和食器揃いで、深山から水が流れ落ち、川を下って大海に注ぎ、天に昇って雨となって降り注ぐという流水の旅を、絵巻物のように器で表現した作品群です。6 年にも及んだ制作への思いと、食器という身近な存在の温かみにあふれています。



流旅転生のうち、大皿、向付、長角（突出し） 1985 年

作家略歴

鈴木 藏 (すずきおさむ、昭和 9/1934 年-)



- 1934 岐阜県土岐郡駄知町(現・土岐市)に生まれる。
- 1961 第 10 回現代日本陶芸展で朝日新聞社賞第一席を受賞。
第 8 回日本伝統工芸展で日本放送協会会長賞受賞。
- 1962 プラハ国際陶芸展でグランプリ受賞。
- 1982 日本陶磁協会賞金賞。
- 1994 重要無形文化財「志野」の技術保持者に認定される。
- 1998 パリにて「鈴木藏展」開催(主催:朝日新聞。パリ、三越エトワール)。
- 2000 日本工芸会陶芸部会長及び、常任理事となる。
- 2006 「鈴木藏展」(岐阜県現代陶芸美術館)。旭日中綬章受賞。
- 2010 第 3 回智美術館大賞現代の茶展にて優秀賞受賞(菊池寛実記念 智美術館)。

■貸出し画像

番号の付いている 1～6 の画像を展覧会の広報のためお貸しいたします。申込み書にご記入のうえ、お問い合わせください。



2. 《志埜花器》1985 年



3. 流転生のうち《志埜湯呑、土瓶》
1985 年



4. 流転生のうち《志埜大皿》1985 年



5. 《織部大皿》1972 年



6. 《志埜茶碗》2010 年

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：花里、島崎）

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX: 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:
	発行日:
TV ラジオ	媒体名:
	放送日:
ネット	URL:

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名と制作年を入れてください。サイズの単位はcmです。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	① 《志埜花器》2008～9年、h. 36.0 × 32.8 × 32.0
<input type="checkbox"/>	② 《志埜花器》1985年、h. 52.0 × 47.0
<input type="checkbox"/>	③ 流旅転生のうち《志埜湯呑、土瓶》1985年、土瓶 h. 25.0 / 湯呑 h. 8.0
<input type="checkbox"/>	④ 流旅転生のうち《志埜大皿》1985年、h. 12.0 × 55.0 × 32.5
<input type="checkbox"/>	⑤ 《織部大皿》1972年、h. 6.5 × 40.0 × 47.0
<input type="checkbox"/>	⑥ 《志埜茶碗》2010年、h. 9.0 × 14.2 × 14.2

●読者プレゼント用チケット希望: 5組 10名様 10組 20名様